

## 平成21年度 第3回鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成21年12月11日(金) 午前10時~正午

2 会 場 鳥取市役所第2庁舎 5階1会議室

3 出席者 【委員】

岩崎憲一委員、太田忠誠委員、谷本由美子委員、前田多喜男委員  
有本喜美男委員、瀧田紘子委員、渡辺勘治郎委員、横山隆雄委員  
藪根彰人委員、藤井健委員、加藤研委員

【アドバイザー】

とっとり地域連携・総合研究センター 澤弘一サブディレクター

【教育委員会】

橋本佳忠次長、中宇地昭人参事、神谷康弘課長補佐、橋本浩之主査

4 会議次第 (1) 開会

(2) 副会長あいさつ

(3) 報告

第2回会議概要

(4) 議事録署名委員の選任

(瀧田委員、渡辺委員を選任)

(5) 議事

①適正規模について

②通学区域について

③次回開催期日について

(6) 閉会

### 5 議事の概要

| 発言者 | 発言内容（要旨）  |
|-----|---|
| 副会長 | 皆さん揃われましたので、第3回校区審議会を始めたいと思います。<br>今日は、会長さんが出張でおられませんので、私の方で司会をさせて頂きます。<br>まず、会議の成立についてですが、今日は2名欠席ですが、過半数以上の出席がありますので、会議は成立しています。<br>次に前回の議事概要について、事務局から報告をお願い致します。 |
| 事務局 | (第2回校区審議会の概要報告・・・レジュメ2ページ)  |
| 副会長 | 前回の審議会で委員より要望のあった小中一貫校の状況が分かる資料、それから公共交通網の将来計画に係る資料、さらに日南町・智頭町の先進地の調査についてなどになっていますか。  |
| 事務局 | 鳥取市では将来の公共交通のあり方について、「鳥取市地域公共交通総合連携計画」として、資料1の11ページのイメージ図のような考え方をベースとして、平成21~25年度の5年間をかけて策定する計画としていますので報告します。   |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | また、小中一貫校の状況と先進地の調査につきましては、学校の適正配置との関連が深いので、次回以降の校区審議会で報告させて頂きたいと考えています。   |
| 副会長 | 今の報告について、何かご質問がありましたらお受けしたいと思います。無いようですので、次に議事録署名委員の選任を行いたいと思います。今回は瀧田委員さんと、渡辺委員さんにお願いしたいと思います。<br>それでは、議事に入ります。<br>標準規模について、事務局より資料の説明をお願いします。   |
| 事務局 | (レジュメの3ページ、資料1の1~3ページ、資料2の1~3ページを説明)  |
| 副会長 | 標準規模については、小学校と中学校でやや違う形が有るものですから、別々に考えた後に、全体的な議論が出来たらと思います。<br>それでは、各校長会よりお話くださいますようお願いします。   |
| 委員  | 小学校長会では、この件に関しまして、小、中、大規模校に分けて、15校の校長にアンケートをお願いしました。<br>その結果、標準規模について、小学校では各学年2クラス、要するに12学級程度が理想ではないかという意見が多くありました。2学級あれば人間関係も固定化しませんし、1学年2名という教員数ですのでお互いが相談し、切磋琢磨しながら、資質の向上も図れていくという事になると思います。<br>それから12~18学級が望ましいという意見もありました。これは、一つには国の標準規模に準じているということ、また経験上、1学年2学級もしくは3学級位の学級数が、互いに刺激し合って伸びていくには妥当な数ではないかということです。さらに、学級編成が可能で、多様な人間関係を経験でき、揉まれていきながら社会性が培われていくと考えます。<br>また、小規模校においても学級経営を工夫したり、異学年交流を行うことで、多様な人間関係の構築を図ることができますし、逆に大規模校において、人間関係の希薄化が生じるとのデメリットがあがっていますが、これも知恵を絞って工夫すれば、解消できる部分もあるとの意見がありました。<br>また、全校児童数が50人足らずの小学校と、逆に600人という大規模な小学校があり、格差が大きすぎるとか、45校という学校数は、本市の人口規模からみても多すぎるのでなかろうかということで、校区審議会等でこの辺りを検討して頂きたいという様な要望がありました。 |
| 副会長 | それでは、中学校長会のご意見をお願いします。  |
| 委員  | 前回は校長会へ意見を聞いたのですが、個人的には、ここにある資料以上のものは多分できないのではないかと感じており、今回は譲っていません。<br>そこで標準規模についてですが、先程説明がありましたように、1学級ですと人間関係が固定化されて9年間過ごすという様な事になりますので、小学校も中学校もできれば最低2学級欲しいと考えます。理想を言えば4学級位あるのが良いのかも知れませんが、鳥取市の現状を考えると、それは難しいのではないかと思います。<br>八頭郡の智頭町が平成24・5年位に小学校6校を1校に統合することですし、八頭町も中央中学校1本にする案が出ている様で、それに伴って小学校も少なくなってくるのだろうと思います。<br>学校を統合すれば、設備や施設の補修整備という様なことに大きな予算を   |

|     |   |
|-----|---|
|     | 使う事なく経費が削減され、その分で教育の質を向上することができるのではないかという事も考えられます。  |
| 副会長 | 今、小学校、中学校それぞれ現場の経験を生かしたご意見を伺いましたが、まず小学校についてご意見がありましたらお願ひします。  |
| 委員  | <p>小学校の規模については、子ども達が色々な意味で協力し合ったり、自己を磨いていくとか、そういう観点から考えますと、ある一定規模は必要だと思います。5人や6人でお互いを磨いていくというのは、難しいのではないとは思います。</p> <p>また、複数学級あった方が良いのにと思う様な場面がありますが、1学級編成の学校が沢山ある現実の中で、2学級がいいですと単純には言えないと思っています。</p>   |
| 委員  | <p>標準規模についてのメリット・デメリットは、ここに出してある通りだと思いますが、色々なファクターがあって、それを保護者に、じゃあどうしますかと問いかけても、結論はなかなか難しいと思います。</p> <p>小学校の場合は、地域との関わりの中で子ども達が育っていると思いますので、地域の中で議論を深め、デメリットをどのように解消していくか、メリットをどう伸ばしていくかという議論をすればいいと思います。</p> <p>中学校になるといろいろな校区、地域から入学して来ますので、学級編成の問題もあり、2学級以上はあった方がいいと思います。ただ規模が大きくなればなる程、保護者の経済的な負担が第1番に通学の問題として出てきます。そのあたりは、将来の子ども像を描いて、こういう子どもに育てたいから理解をしてくださいという形でいかないといけないと思います。</p> <p>基準を定めることは当然必要だと思いますが、そのメリット・デメリットを各地域で話し合うという事が、不可欠だと思います</p> |
| 副会長 | 今のお話を聞きして、地域との関連が非常にあると思いますが、どの様に考えたら良いか、ご意見を頂きたいと思います。   |
| 委員  | <p>地域の立場からは、適正規模というよりも1校区1地区というのが、一番望ましいことだと思います。</p> <p>ただ、それは不可能に近いことだと思いますので、地区との関わりなり、コミュニケーションが取れるような形がいいと思います。</p>  |
| 委員  | <p>小規模校の保護者から、中学校で二つか三つの部活しかできない様な、特にチームプレーでやる、バレー・ボーラーだと、野球だと、そういう事が全く組織できないので、困ったものだという声をよく聞きます。</p> <p>それなら、隣の中学校と合同で参加する方式もあるだろうという事ですが、それでは駄目だということで、中学生になると部活で人間的にも成長しますが、個人競技しかないというのは辛いことで、かなりの種類の部活動ができる規模を確保しなければいけないという声を聞いています。</p>   |
| 副会長 | 中学校では、やはり部活の問題も含めて、人間関係を作っていくのに、ある程度の規模が必要じゃないかということですね。  |
| 委員  | 私の住んでいる地域は1小学校・1中学校ですので、9年間同じメンバーで進んでいくことになりますが、途中で人間関係とか、成長段階とか、家庭環境によって色々な問題が起きた場合の修復が難しく、固定化してしまうというのは可哀想だという気持ちが、直接子どもを育てている時分にはありました。  |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>ただ、かといって規模を大きくするために、学校を統合するという場合は、通学距離の問題があり、今でも一番遠くから通学する子は、小学校まで40・50分かかる状態なので、それがもう少し遠くの学校に行くという事になると、1時間以上かけて行くことになる訳ですから、スクールバスをかなり細やかな配慮をもってして頂かないといけないと思います。</p> <p>そう考えると、統合するという事は、小学校の段階ではかなり難しいかなと思います。中学校では是非、考えて頂きたいと思います。</p>   |
| 委員  | <p>最近の子ども達の状況を見てみると、小学校の就学前までについていなければならぬ人間関係の力が、ついていない子があるように思います。</p> <p>そこで、小学校で毎日の勉強、学習指導を通しながら、人間関係力をつけている訳です。そうすると、授業の中で子ども達の色々な考え方方が出てきまして、その多様な考えを受け止めながら、さらに発信をしてゆくという部分が必要となります。</p> <p>そうなると、やはり1学級の人数も最低10名位はいるでしょうし、複数学級あれば、色々な人間関係があり、またある学年で人間関係がますくなつたとしても、次の学年の学級編成で修正もできるし、やり直しも効く訳です。</p> <p>これが1学級でしたら、ずっと同じ環境の中で改善をしていかなければならないことになり、それも一つの力でしょうが、今の子ども達の現状から見ると、学校の中でそういう力を付けていくという事になれば、標準としてはある程度の規模を考えていかなければならぬ課題だと思います。</p> |
| 委員  | <p>規模という考え方から少し離れるところもあるのですが、小学校、中学校と子どもを通させてみると、小学校の低学年の方は、人間関係が中心になっているというのは確かに感じます。</p> <p>それが、高学年になってくると、基礎的な学力とか、中学校に向けての人間関係の力をもっと付けていって欲しいなという感じがします。そこで小学校では6年間で狙うところが変わってくると思いますので、それを含めた規模を考えていかなければならぬと思います。</p> <p>逆に中学校になると、高校という次のステップがありますので、そこに向けての学級編成、学力向上に向けての編成であり、より大きな社会に対する対応力みたいなものを付けていくための規模が、必要になってくると思います。</p>   |
| 副会長 | 小学校と中学校とでは、ある程度規模の問題は違うという事ですか。  |
| 委員  | 次の目標部分が、大きく変わってくるのではないかと思います。小学校は途中で編成が変わるので、さらに難しいだろうと思います。   |
| 副会長 | 他にご意見はありませんか。  |
| 委員  | 子どもがたくさんいるということは、地域にとってはいいことですが、標準規模の学校にするために、言葉は悪いですが無理矢理に統合し、バスで通うというような事になるのは問題だと思います。通学距離のこともあり、統合というのは、そう簡単にはいかないのではないかと思います  |
| 委員  | <p>小規模校、大規模校でメリットも沢山あるし、デメリットもあるという事で、どちらをより大きく取り上げて考えるかという事で違ってくると思います。</p> <p>そこで、やはりメリットの方を考えて、標準規模はこれ位ではないかという基準を出し、その上で通学路の問題等がありますので、そういうところも</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | きちんと整理して決めた基準に沿って、話し合いをしていくのが一番良いのではないかと感じます。   |
| 委員  | <p>大規模、小規模と言いますが、3学級以上というのは殆んどないので、1学級、2学級はどちらが良いかという結論になる様に思います。</p> <p>多分、皆さん言われる通り、どちらでも半々位だろうと思います。むしろ1学級の子どもの数が、10人とか、15人以下というのが一番問題ではないかと思う訳です。規模の問題はそこをクリア出来れば、後は1学級でも2学級でも問題はないという感じがします。</p>   |
| 副会長 | <p>今、ご意見を頂いた中では、やはり学校規模というのは、大・小どちらにもメリット・デメリットがあり、そこを良い悪いという判断はなかなか下し難いという様なご意見が多かった様に思います。</p> <p>では、標準規模の件はここまでにしまして、次に通学区域についてご意見を伺いたいと思います。</p> <p>先程、小学校は一つの地域コミュニティみたいなどころで設置出来るのが理想だというご意見がありましたが、中学校の通学区域については、どう考えられますか。</p>  |
| 委員  | <p>通学区域というのは、非常に難しい問題だと思います。</p> <p>私のところは全員徒歩通学ですが、歩ける距離という事で、区域は最大3キロ位だと思います。通学距離のことを含めて、やはり校区と規模というのは切り離せない問題だろうと思います。</p> <p>先程、部活の事がありましたら、東部陸上というのがありますて、東部の中学校の生徒が出席して競技する訳ですが、やはり小規模校は人数が少ない分、なかなか入賞出来ないです。部活が強いというのは、学校の活性化にも繋がりますし、やはり大規模校の方がいいのかなという部分もあり、そういうことも含めて10年、20年先を見通した校区編成をしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>また、1学級でずっとあがっていくというのは、子どもにとって負担が大きいのではないかと思います。そこで多少距離はあって1時間位かかるかもしませんが、ちょっと規模の大きな学校に編制する方がいい場合もあるのではないかと思います。</p> |
| 副会長 | 中学校に関しては、やはり部活の問題、それから通学距離を取ったとしても、ある程度の規模を考えていった方が良いのではないかということですね。  |
| 委員  | 先程言いましたが、中学校の場合は正にそうだと思います。中学校の場合は通学の負担をあまり考えなくても、ある程度の規模が要るだろうと思います。   |
| 委員  | 中学校の通学距離に関して、ある程度目をつぶるという部分は、保護者としてもあっていいと思います。あとは十分な交通費を援助して頂ければ、理解は得られると思います。   |
| 委員  | <p>交通費だけではなくて、路線バスで通学することになると、遠い所の子は、学校が終わった後帰宅するのに1時間位かかり、部活をする時間を確保するのも大変です。</p> <p>毎日の学校生活の中で、通学距離があまりにも長いと大変なので、路線バスの補助金だけでなく、基本的にスクールバスとして、保護者がある程度負担をするにしても、行政にサポートして頂きたいと思います。</p>   |

|       |  |
|-------|--|
| 岩崎副会長 | この点について、事務局はどういう考え方ですか。  |
| 事務局   | 通学距離の問題は、一つの基準で全てを判断するという事は難しく、複合的な要素を絡み合わせながら、考えていく必要があると考えています。  |
| 副会長   | スクールバスの問題は、適正配置を考えるうえで関係してくると思いますので、次の課題として残しておきたいと思います。<br>あと通学距離について、小学校はどう考えていったら良いかお願います。  |
| 委員    | 原則として、1年生が自力で歩いて通学できる距離だと考えており、時間的には30分位かなと思います。<br>高学年になれば、もうちょっと長くてもいいと思いますが、それ以上になれば、やはりバスでないとなかなか難しいと思います。ただ、子どもたちの繋がりとか、景色を見て四季を感じながら通学するというようなことが、生きる力にとって大事な事ですから、出来るだけ徒步通学を重視すべきだと思います。  |
| 副会長   | 1年生が歩いて30分、距離的には難しい問題があるかも分かりませんが、その辺どう思われますか。   |
| 委員    | 30分で区切るのが良いか、悪いかという議論はありますが、ある一定時間で歩いて行ける距離が良いと思います。<br>歩いて行く事によって基礎的な体力みたいなものも付いてきますし、それから自然を感じながら歩くという事で、情緒といいますか、子どもたちの情操に非常に良い影響を与えると思います。   |
| 委員    | 徒步通学は理想ですが、山間部では現実的には難しい訳で、地域で工夫するにしろ、それだけでは、どうにもカバー出来ない様な情勢ではないかと思います。  |
| 委員    | スポット的には飛び地にならざるを得ない地域もあると思うが、中心部的には徒步通学がいいのではないかという意味です。   |
| 委員    | 米里地区は学校から集落が離れていまして、例えば雲山や越路から通えば、歩いて30分、40分かかります。1年生の頃は可哀想だなと思うが、だんだん大きくなると、元気になり、体力も付いて親も喜んでいる様な状態です。<br>地域の街作りアンケートを取った中で、雲山の方から子ども達の通学先を近い所へ替えて欲しいという意見も確かにありました。色々聞いてみると、距離という事はあまり関係なく、異学年の子と一緒に話をしながら通学するというのが一番いいし、元気になると思うので、そのことはあまり苦にならないという様な事を言っておられます。 |
|       | 適正規模で適正距離というのは理想でしょうが、今までに慣れてしまった形を変える時には、十分に話をされませんと、地区をまとめられるのは大変だと思います。   |
| 副会長   | 適正規模、適正距離というのは理想ですが、現実的には、難しいところが地区によってはあるという様な話だと伺いました。   |
| 委員    | 関連した質問でしたので、大部分は解決したのですが、資料1の4ページの小学校の通学状況について、随分長い距離を歩いている学校がありますので、こういう事に対してどんな意見が保護者から出ているのかお聞きしたいのですが。   |
| 委員    | 美和小学校では、赤子田が、河原に行く方が近いのかなというくらい距離  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>が遠い所で、子どもがへとへとになって帰って来るという話が、1・2年生位の間は保護者からありますけれど、だんだん高学年になると出てこなくなります。</p> <p>それよりも、通学距離が長くなればなる程、危険な個所が多くなったり、夕方になると照明がない場所があつたりしますので、距離よりも危険区域について心配する意見が多く出ています。</p>  |
| 副会長 | ここで、通学の基準について、事務局より資料の説明をお願いします。  |
| 事務局 | 通学距離に関する資料を説明（レジュメ3ページ、資料1の4～10ページ、資料2の3～5ページ）  |
| 副会長 | 今の説明を踏まえて、何かご意見はありませんか。   |
| 委員  | 国の基準は、4キロ、6キロは基本的には歩くということを前提に考えていますよね。   |
| 事務局 | そうです。小学校4キロ、中学校6キロ以内は歩くという事が前提で、資料2にも載っていますが、バスや汽車を通学手段として使えば、4キロ、6キロを超えても通学出来ると、国の方も示しています。  |
| 委員  | 中学校の自転車通学に関しての基準はどうなっているのですか  |
| 事務局 | 自転車通学についてのルールは、大体2.5キロ～3キロ以上の場合に認めるという様な事で、学校ごとに決めています。   |
| 委員、 | 資料1の4、5ページの通学、徒歩、バスのデータは、今在校している児童生徒の集落名で、いちばん遠いところという事ですが、将来に渡れば、まだ遠い集落も出てくると思いますが、そういうデータは無いですか。  |
| 事務局 | 遠距離通学費の補助を検討する中で、学校ごとに想定される最も遠いバス停、そのバス停から家までの距離も測っています。その資料もありますが、今回、お示ししたのは各学校の現状で、在校生が何分かけて学校に通っているかという資料です。   |
| 委員  | 私が見た感じだともっと遠い所があるので、それが載っていないと思いました。路線バスが通っている道、そこに出るまで30分も40分もという所があります。また、とても急勾配で登校するときは自転車で行けますが、帰りは乗れないようなところもあり、この表はこれでいいですが、そちらも考えていく必要があると思います。  |
| 副会長 | <p>通学区域については、小学校、中学校ごとに審議をしてきましたが、共通部分で結論を出すことは難しそうなので、別々の考え方をした方がいいのではないかと感じました。</p> <p>今日出た意見を総合しますと、標準規模なり、適正距離は、それぞれにあると思いますが、そこから外れた地区をどうするかというのが、一番大きな課題になってくるのではないかと思います。</p> <p>次の学校の適正配置の問題、統廃合も含めてなのですが、標準規模、適正距離が得られている学校、そういう地域であれば、問題は割と少なくて済むのですが、市全体で考えると、その範囲に当たらない校区がかなりあるという事で、それをどうするかという事が一番大きな問題だと思います。</p> <p>通学方法で、路線バスかスクールバスかというようなことについては、どのように考えられますか。</p> |
| 委員  | 路線バスが有れば良いのですが、それが無い学校があるとか、路線バスはあっても向きが違つたり、学校行事を土日にやると来ないとか、1本のがす   |

|     |   |
|-----|---|
|     | と次がなかなか来ないという所もあり、色々な問題を含んでいて単純には言えないと思います。スクールバスについては、財政事情の問題があるでしょう。  |
| 委員  | 3人や4人のために、スクールバスを出すというのも効率の悪い話だと思います。子どもが沢山いるのであればスクールバスでもいいと思いますが、それぞれの学校の事情によって、またそれぞれの年によって違ってくると思いますので、それは個別に検討するしかないのではないかと思います。   |
| 事務局 | 4キロという基準は、歩いて1時間というのが多分根拠だと思うのですが、実は遠距離通学費の補助金について議論をする中で、対象とする距離を小学校は3キロに変えたというのは、現在の子ども達、特に低学年の子ども達の実情を考えて、1時間程度で歩ける限界は3キロ位ではないかと考えたという経緯があります。その辺りを考えますと、やはり時間的な要素という事も含まれてくると思います。<br>この基準が出来た時分は、多分小学生も中学生も全員歩いて学校に行っていたと思うわけですが、時代とともに交通手段が発達した中で、交通手段を含めた上での時間的なものを、距離に勘案していく必要があるのかということを、ご議論頂けたらと思います。 |
| 副会長 | 今、事務局から話がありましたが、時間の問題については、例えば部活をやって帰宅するという場合、公共交通機関を使うとなると、その中で活動の範囲が狭められてしまうのではないかと考えます。そんな事も含めて、距離だけではなく、時間的な配慮というはどうしたらいいかということについて、ご意見はありませんか。   |
| 委員  | 少子化という事も影響してか、過保護だという事があって、保護者の送迎が結構多いのが現状です。先程言われた1時間半歩いたという、そういう精神力が今の子どもには無いのです。そういう現状から見て、朝から4キロ歩けと言ったら、不登校になる子もでてくるのではと思います。<br>今の子どもの状況とマッチした距離、時間を考えいく必要があると感じます。  |
| 副会長 | 昔と今の時間の概念は違うので、距離だけでなく、時間も考慮したほうがいいのではないかというご意見を頂きました。  |
| 委員  | 私たちの中学校では、今殆ど保護者が送迎しています。我々の時代は10キロ位を通いましたが、今は、クラブ活動が終わるのを保護者が待ったり、逆に保護者が帰るのを、校門の前で待って帰宅する子があるというのが実態です。確かに過保護だと言われる向きもありますが、何故、保護者がそういう方法を選んでいるかという実態を調べて見ることも必要だと思います。<br>バス路線だからバス通学だという整理ではなくて、実態はどうなのかという事も含めて、どういう思いで保護者が送り迎えをしているのか、調べて見る必要があるのではないかと思います。   |
| 委員  | 確かに過保護だという部分もあるかも知れませんが、安全面というのに、保護者としてはかなり危機感を感じていると思います。<br>私のところの小学校でも地域の人達が安全隊を組んで、子ども達が通学するルートに立つという取り組みをしていますが、明るい時間帯でも保護者や地域の人達が目を配るという事が必要な時代になっているということで、本当に悲しい事ですが、現実としてはそういう部分が、非常に心配です。   |

|     |   |
|-----|---|
| 副会長 | <p>現実には保護者による送迎を行っているところもあるようですが、行政の方としては、それを原則にして押しつける訳にはいかないと思います。</p> <p>ですから、やはり徒歩なり、路線バスなり、公共の交通機関を使っての設定しか出来ないということになりますが、そういう兼ね合いというのは、どう考えていけば良いのかなと思います。</p> <p>保護者の意識としては、自分の子どものことだから、自分の責任で送迎をするという考え方方が大半だと思いますが、それを当てにして、校区を設定するという訳にも参りませんし、その辺の事を考慮すると、やはり基本的にはスクールバスなり、路線バスという線が出てくるのではという気がします。</p>                                   |
| 委員  | スクールバスは、難しいと思います。財政的な話が全然出ていないですが、本当に、検討されるのですか。  |
| 事務局 | <p>具体的には検討していません。ただ、鹿野町のように、合併前からスクールバスを運行している地域が一部あります。</p> <p>財政論で言えば、今の遠距離通学費の補助金額よりスクールバスを走らせる方が安いという事になれば、あるいは可能かもしれません。ただ、そうなるとバスを管理しなければならない、運転手だけではなく、例えば小さい子が乗れば添乗員が必要となったり、バス1台では、最後の方になったら1時間以上かかるてしまうという事になるかも知れません。実際やるとなると、かなり細かい事を詰めていく必要があり非常に難しいと思いますが、絶対に出来ないという話ではないと思います。</p>   |
| 委員  | 学校だけのバスでなく、多目的というか、地域を巻き込んだ形で考えたらどうでしょうか。   |
| 事務局 | <p>このバスの件に関しては、例えば、スクールバスを走らせれば、定期バスに乗る人がなくなるという矛盾が出来きます。そうなると、教育現場だけの話ではなくて、交通政策ともからめて、全市的に地域の足をどう確保するかという様な視点で、話をしていかなければならぬ時代に来ているのではないかと思います。</p> <p>また、路線バスが走っているのにスクールバスを走らせるという事は、路線バスに乗らなくていいと言うようなものですから、ただでさえ民間バスが赤字で、年間何億という補填をしているのに加えて、子どもを乗せない様にして、さらに赤字補填というような仕組みになってしまいます。仮にスクールバスを走らせるとしても、路線バスが撤退したとか、赤字で維持できないというような地域になると思います。</p> |
| 委員  | そういう意味も含めて、やはり、スクールバスというのは難しいのではないかと思います。   |
| 委員  | <p>私たちの地区ではバスが廃止になって、代替タクシーがその時間帯に来ます。そのタクシーも、途中で乗り換えないと鳥取まで直に行かないで、皆が嫌がり乗らないということで、それも廃止になるという事です。そうなると、何もなくなって困ってしまいますので、予約制で、電話を入れたらタクシーが迎えに来るという制度を考えてもらいました。</p> <p>これを小学校の下校時に利用できるように頼んでいますが、そういう制度ならば、スクールバスでなくても、市の補助金額も少なくて済むという事なので、そうしようかと思っているところです。</p> <p>それから部活の場合、様々なクラブに入っているため、子ども同士一緒に</p>  |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>帰ろうと思っても終了時刻が合わず、帰り様がないということがあり、親が順番で迎えるという工夫をしているようです。</p> <p>何かの方法を取らないと、行政に頼んでもなかなかやつてもらえる事ではありませんので、地域の方でいろいろな事を進めています。</p>  |
| 副会長    | <p>今、バス路線や代替交通についての事例紹介がありましたが、公共バスとの関係は、これから変わってくるのではないかと思います。その辺も踏まえた上で、今後意見をまとめていきたいと思いますので、今日は、これで審議を終わらせていただきたいと思います。</p> <p>全般について、アドバイザーの方で何か頂けますか。</p>  |
| アドバイザー | <p>事務局に確認させて頂きたいのですが、本日は標準規模と通学距離という事で、皆さんにご審議頂いたのですが、それぞれのまとめというのは、いつの時期にやられるのか、例えば、今日で標準規模について議論が終わりということであれば、ある程度提言までいかないにしても、こういった項目で話し合われたという整理をしておく必要があるのではないかと思いました。</p> <p>それと細かい事ですが、標準規模について、地域の声として想定されています「小学校がなくなると、地域の活力がなくなる。」というようなことについても、意見を聴取しておかないと、規模の話はもうしないという事になると、漏れが生じる様な事で終わってしまうことになり問題だと思います。</p> <p>それから、レジュメに、安全性という事が通学区域について書いてありますが、その安全性について議論するポイントというものを示しておく必要があると思います。資料1の8ページに、事故の発生状況がありますが、起きた事故は結果ですから、それを未然に防ぐという意味で、他にチェックする項目は無いのかどうか、安全面での項目出しをしておかないと、そこの議論が深まらず、距離の話ばかりにシフトして、ポイントが議論されないまま終わってしまうのではないかと考えます。</p> |
| 副会長    | <p>標準規模に関する意見をまとめますと、鳥取市の地域的な要素を考え、上限の方は大体18学級まではいいとは思いますが、12学級を確保するのが難しい校区もありますので、下限の方は標準規模よりも若干少なくてもいいのではないかというご意見だったように思います。</p> <p>皆さん、今の様な考え方でよろしいでしょうか。</p>   |
|        | 「異議なし」の声あり。   |
| 事務局    | <p>有り難うございました。ご議論頂きました様に、極端に大きい場合と小さい場合という事で、一律の基準はなかなか作り辛いと感じました。</p> <p>あとは適正配置という段階で考える事が出来ると思いますが、極端に少ない場合というのが多分、議論になろうと思います。その場合は、適正配置というよりも、学校の存続に関わる問題という様な事で、教育効果を考えながら、この校区審議会の中で指針を出して頂く時期が来ると思います。それをどうするかという事は、地域の要望とか、基本的なデータはどうなっているかという事を準備させて頂いて、ご議論頂きたいと思っています。</p> <p>それと、安全性の事につきましては、今後も議論があると思いますが、前回出ました、例えば城北小学校校区の問題で、千代川を越えることが果たしていいのかという様な視点もありますし、国道を横断する事がいいのかどうかという問題、交通量の問題であるとか、どれだけ安全対策が施されているのかとか、色々な事を要素として考えなくてはいけないと思います。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | これもまた、今後、適正配置を議論する中で、合わせて総合的に判断して頂けたらと思います。  |
| 副会長 | 通学区域、通学距離の問題に関しては、場所によって要件が変わってきますので、今の基本的な小学校4キロ、中学校6キロを考えた上で、その場所に応じて、適正に考えていかざるを得ないという事だった様に思います。そういうことで、今後考えていくということで宜しいでしょうか。                           |
|     | 「異議無し。」の声あり。   |
| 副会長 | 次に危険区域の問題ですが、これも地域の状況に合わせた形で、考えていかざるを得ないので私はありますので、地域の要望なりをお聞きしながら、進めていったら良いのではないかと思います。   |
| 事務局 | 一点確認させて頂きたいのは、国は12~18学級という基準を設けており、これについては、市町村や県がとやかく言う問題では無いのですが、考え方として、ここにもっていくのか、これはあくまで基準であって、地域の実情に合わせながら柔軟に対応していくのかという部分を、最後にご議論頂きたいと思います。             |
| 副会長 | 今、事務局から話があったのですが、国の基準にそった形で対応を考えていくのか、鳥取市の考え方、それぞれの学校の事情に配慮した形で、融通を持って考えて行くべきなのかという事についていかがでしょうか。  |
| 委員  | 地域の実情に合った施策を、進めてもらった方が良いと思います。国の基準に沿っていないから、補助金だとか支援が受けられないという事は不幸ですが、そういう事が無ければ、国の基準は基準として、鳥取市は鳥取市の考え方で良いと思います。   |
| 副会長 | 今の考え方で宜しいでしょうか。<br>では皆さん、ご同意頂けたという事で、そういう様な形で進めて行きたいと思います。他に何かご意見ありますか。  |
| 委員  | すみません。この事故報告は、どこで起こっているのかというのは分析出来ますか。   |
| 事務局 | 本日は、場所のデータを持ち合わせていません。<br>次回、調査のうえデータを出させて頂きたいと思います。   |
| 委員  | 米里校区が4件と一番事故が多くなっていますが、この原因としては、平成18年度に雲山の子どもが、反対側の県道を通っていて、途中から渡った方が早いので、横断歩道が無い所を走って渡り事故にあった事が有りました。その後、直ぐ警察の交通安全教室を開いてもらって、それから厳しく言って、次の年は無くなつたというのが現状です  |
| 事務局 | 事故については各学校から報告が上がってくるのですが、どちらかと言いますと、明らかに危険な所は気を付けます。<br>ですから、あまりそういう場所での直接的な事故は無く、車とちょっと接触したとか、不注意による事故の方が多いようで、交通量が多くて危ない所では気を付けますので、そういう所での交通事故は殆んどありません。 |
| 副会長 | 次回までに事務局の方で、調べられる範囲で調べておいて頂くことで、ご了解を頂きたいと思います。<br>そうしますと次回の審議会ですが、2月の下旬、もしくは3月の辺りでやりたいと思います。<br>内容につきましては、今日、ご討議頂きました標準規模と、通学距離の基                            |

準について、それと今度は全体を見ながら、どういう風に学校の適正配置を行いうかということを考え、その件に対してご意見を頂きたいと思います。また、日時については連絡をいたしますので、よろしくお願ひします。それでは、今日の会議はこれで終了したいと思います。どうも、ご苦労さまでした。